



特集「社会変化と公園緑地」の 編集にあたって

近年の人口減少・高齢化，財政悪化，大規模地震等頻発する自然災害，増大する地球温暖化対策や生物多様性の確保の必要性等社会経済状況の変化により，公園緑地に求められる役割は多様化し，各地方公共団体等はさまざまな取り組みを行っている。

ここで，公園緑地は，良好な環境・景観の形成，防災，動植物の生息・生育環境の保全・創出の場，レクリエーション・余暇活動の場，休養・休息の場等の役割を果たしているが，先のような社会経済状況の変化にともない，近年特に地球環境問題への対応，市民参加活動の拠点等の役割が求められている。また，大規模な災害時における防災・減災の場としての役割も一層求められている状況にある。さらには，生物多様性，とりわけ里山保全の視点からの取り組みや，高齢化社会に対応した園芸療法やリハビリ・介護予防の視点からの取り組みも進められている。

本特集では，総論として，こうした新たに求められるそれぞれの役割や視点から，今後の公園緑地のあり方について展望していただいた。はじめに，兵庫県立大学の平田富士男氏に，変わりゆく市民のニーズを踏まえて，市民とともに公園緑地がこれから進むべき方向性について論じていただいた。明治大学の興水 肇氏には，近年，わが国が東日本大震災等の大規模自然災害に直面する中で，都市において公園緑地がこれまで果たしてきた役割を踏まえて，今後の公園緑地の防災・減災に果たす役割について論じていただいた。京都学園大学の森本幸裕氏には，生物多様性の確保の観点を踏まえつつ，都市へ里地里山の恵みを取り入れる，今後の公園緑地を活かした里地里山の保全・活用の方向性について論じていただいた。大阪府立大学の藤原宣夫氏には，近年注目されている地球温暖化対策，低炭素社会の実現等に係る，都市における公園緑地の役割について論じていただいた。

次に，各論として，公園緑地に係るさまざまな取り組みの中で注目されている点に関し，先進・典型事例をご提示いただきながら，論説いただいた。兵庫県立大学の美濃伸之氏には，公園緑地におけるバリアフリーに係る取り組みを，その規模に応じた典型的

な事例を提示しつつ論じていただいた。東京農業大学の浅野房世氏には、高齢社会への対応として、公園緑地における園芸療法を活用した高齢者対策、予防介護やリハビリの場所としての公園緑地の活用等について事例を提示しつつ論じていただいた。東京農業大学の金子忠一氏には、これからの公園緑地の維持管理に必要な不可欠である長寿命化について、先進的にストックマネジメントを行っている事例を提示しつつ論じていただいた。

これらご執筆の先生方の労に感謝申し上げるとともに、本特集が、さまざまな社会変化の波が押し寄せる中で、今後の公園緑地の展望を拓く羅針盤となることを期待したい。

(編集委員 鈴木武彦・井手 任)